

あなたのSDGsは？

vol.12

中松三区 ヴィルヘルム・ヨハネス Dr. Johannes Wilhelm
Japanologist, Ethnologist 哲学博士・日本学・民族学



SDGs 未来都市
南阿蘇村



英語の「Sustainable Development Goals」の頭文字はSDGsとして略称されており、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されている。しかしながら、「Development」＝「開発」という訳には違和感がある。語源辞典を引くと、「Development」は動詞「develop」と名詞化語尾の一つである「-ment」から形成されており、歴史的に意味が変容の道を通った。

18世紀中期では「段階的な展開、物事の詳細の完全な解明や開示」であったものが18世紀後期まで微妙に「段階的な進歩」と変化し、19世紀に掛かって「潜在的な可能性を引き出して、利用や利益につなげること」から20世紀初頭まで「経済発展」へと経済性を強調した意味合いを持つ様になった。

他方で英国とは別な言語史を通った米国では19世紀前期に「betterments」という造語も登場しており、「より良くする／されたこと」、「改善」とも和訳できると思う。実際に、「Development」は現代、「開発」に限らず様々な和訳があり、発達、発展、進行、進展、進歩、出来事、変化、開拓、作成、成長、展開があげられる。

SDGsを「持続可能な変化目標」、「持続可能な進展目標」、「持続可能な成長目標」、「持続可能な展開目標」といった和訳に変えるとニュアンスが大きく変わる。SDGsは目標（ゴール）であるため、必ずしも達成しなければならない義務はない。どちらかといえば日本語で「達成に向けた努力目標」の意味合いがある。即ち、スポーツで例えれば100メートル走で現在20秒台であれば、20秒を切る方向へ目標を定める様なものである。

来年は終戦80周年を迎える。果たして以来、世の中はより平和な場所になったのか？80年の間に冷戦の核の脅威は無くなったのか？戦争は無くなったのか？貧富の格差は無くなったのか？

ドイツの作家、ベルトルト・ブレヒトの「処置」(Die Maßnahme)という劇に「世界を変えよう、(世界が)それを求めている！」(Ändere die Welt, sie braucht es!)という一節がある。理想派と現実派は時折対立する。しかし、両派の目標は必ずしも異なる必要はない。だから私は「betterments」という解釈が嫌いではない。SDGsを少し自由な訳し方であるが「持続的に良くする目標」と理解してみると、色々な意見があっても共有できる行き先・目標が見えてくる気がする。

編集後記

暑い日が続いていますね。冷たい飲み物がおいしい季節となりました。熱中症にはくれぐれもご注意を！水分補給、睡眠、バランスの良い食事など普段以上に気を配って体調を崩さないようにしましょう。

私の夏の思い出は、クワガタやカブトムシを取りに行っていました。つかまえた時の喜びは今でも覚えています。

この夏、パリ五輪開幕。いろんな事にチャレンジし、最高の思い出を作られてはどうでしょうか？

今後とも議会だより「すいげん」を宜しくお願い致します。

岡 智則

議会広報特別委員会

委員長 市原 恵一
副委員長 坂田 正也
委員 河内 克也
〃 岡 智則
〃 辰巳 和美

発行責任者

議長 山室 昭憲

表紙の写真について 青い空と黄色花カンナ。ウクライナをイメージしてシャッターを押しました。世界の平和をお祈りします。



ウクライナ国旗